

○越家恭子* 今井範子** (*奈良女大・院, **奈良女大)

【目的】本研究はこれまでの継続研究¹⁾として、中部圏において調査を行った。中部圏では、行事を伝統的に執り行い、そのための室として畳室への要求が高い地域であると考えられる。そこで、中部圏の畳空間の実態を明らかにし、その特徴を見出すとともに、今後の発展方向を検討することを目的としている。

【方法】中部圏において、住都公団により近年開発された住宅地3地区の中から、注文戸建住宅を対象に質問紙による大量調査を行った。また、大量調査から、典型例を抽出し、間取りの採取、写真撮影、ヒアリングによる事例調査も併せて行った。

【結果】中部圏では、畳空間計画時に、家族間の意見はもちろんのこと、親類からの意見を参考にした世帯が過半数を占めている。地元志向が強く、比較的近い距離に親類が集まっていることの多い、中部圏の特徴が影響しているのではないかと考える。平面の位置関係をみると、畳室が1室の場合は、玄関近くで独立か、L空間に隣接させた平面が各4割となっている。玄関近くで独立している場合、約3割強が客間となっている。次いで、予備室(約3割)、仏間(約2割)である。Lに隣接させているものについても、客間、予備室、仏間といった機能が各2割程度となっているが、茶の間、居間の機能が1割強みられる。また、畳室2室の場合では、2室それぞれが他室に隣接しているものが約半数を占めている。そのうち、居間、主寝室がL、個室等に隣接しているものが多い。畳の続き間は、約3割強(全体で1割)となっており、客間として機能している割合が高くなっている。

1) 今井範子他：畳空間にかかわる住様式と住意識の検討－首都圏の注文戸建住宅における－(第1報 住宅計画時における畳空間に対する住要求と新しい試み)日本家政学会第52回大会 研究発表要旨集 pp223 他

※本研究は文部省科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表者 今井範子)によっている。